

お茶高-戸山高理系女子育成連携事業

「女性研究者にインタビューしてみよう」⑤



この事業は両校の生徒が組んで女性研究者にインタビューし、そこで得たものをまとめ、全校、全国の理系を志す児童、生徒のみなさんに向けて発信するプロジェクトです。

ここでは情報コース1年生2名が令和6年11月7日、東京科学大学の叢悠悠助教にインタビューした記事をご紹介します。

私たちは、お茶の水女子大学附属高等学校の方々と共同で東京科学大学の助教兼研究者である叢悠悠先生にインタビューさせていただきました。叢悠悠先生だからこそ分かる秘話や高校生の頃にやっておいてよかったことなど今の私たちにもためになるようなお話を聞くことができたので紹介していきたいと思います。

Q&A

Q. 研究内容について教えてください

A. 私は、プログラミング言語について研究をしています。なかでも、数学や論理学の技術を使ってプログラムの正しさを保証したり、初心者でも楽にプログラムを記述できる言語を開発したりすることに興味を持っています。

Q. 大切にしている考えや価値観があれば教えてください

A. 私は研究者になって6年で、だんだんと研究者としての生き方にもいろいろあることが分かってきました。研究者の仕事は研究を行うことだけでなく、学会の運営やコミュニティの形成なども含みます。周りに沢山の研究者がいる中で自分の得意なことを見つけ、それを活かしながらコミュニティに貢献することが大切だと思っています。

Q. 研究に行き詰ったときの対処方法を教えてください

A. 専門家の方に質問するようにしています。これは勇気がいることですが、研究者の方は皆次世代を応援してくれているため、喜んで質問に答えてくれます。

Q. 高校生・大学生のうちにやっておいてよかったことや、やっておけばよかったと思うことを教えてください

A. 私が高校生のときにこれをやろうと思っていたことは特になく、淡々と授業に出て、部活もほとんど

叢悠悠先生について

もっと知りたい！！

幼稚園から大学院までお茶の水女子大学の附属校園に所属し、博士課程在籍中にニューヨーク大学、ノースイースタン大学、チャルマース工科大学に留学。学位取得後、東京科学大学情報理工学院数理・計算科学系に助教として着任。

しない生活を送っていました。大学生のときは、お茶大の支援により 3 回の海外留学を経験し、現地の研究室の雰囲気や日本と異なる文化に触れることができました。

就職してから学生時代にやっておけばよかったと思うことは、受験でしょうか。私は幼稚園から大学院までずっと推薦制度を利用して進学したため、ちゃんとした受験勉強というものをしたことが一回もありません。そのせいか、研究などの場面で自分に馬力が足りないと感じることがあります。学生の中にガンガン難しい問題を解く経験を積んでおくのは良いことかもしれません。

Q. 高校生へのアドバイス！

A. 勉強以外で何か好きなこと楽しめることを一つ持っていた方がいいと思います。私の場合はそれが音楽で、小さいときからピアノやヴァイオリンを習っていたのですが、実は最近、音楽とプログラミング言語に関する研究を行っています。

このように、自分の趣味が、研究とどこかでつながることがあるかもしれません。すると、研究と趣味をつなげた面白い発想ができるようになって、それをきっかけに自分の研究分野だけでなく、離れた分野の研究者とも友達になることができるので、趣味を持っていてよかったと思っています。こうした趣味に時間をかけられるのも高校生まで、大学進学後は思うようにしたいことができなくなるので、できるうちに自分の好きなことを見つけて持っておくことをおすすめします。



今回のインタビューでは、研究者というお仕事のこと、研究をする上で気を付けていることなど、とてもためになるお話を聞くことができ、貴重な時間を過ごすことができました。高校生へのアドバイスは私たちに勇気を与えてくださいました。この言葉を糧により一層研究に励んでいきます。

— 叢悠悠先生、インタビューへのご協力ありがとうございました！ —